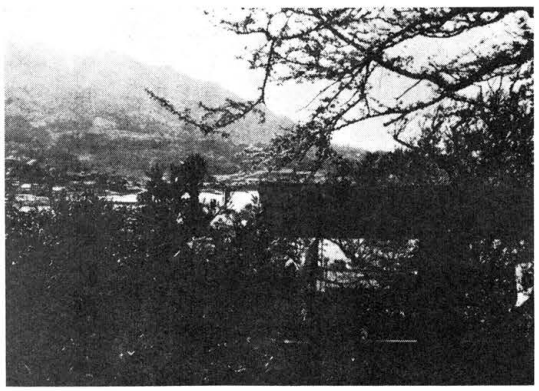
宗像

毎月一日発行
発行所
宗像大社
福岡県宗像郡玄海町
電話神湊26番
定価一年 送料共500円

初夏の織幡さま



玄界灘と響灘とが交る海洋に突出した鐘の岬。この先端佐屋形山上に鎮座する織幡神社。

延喜の昔、当大社と共に名神大社に列し、降って中世宗像五社の一に数えられた。織幡の社名は、当大社に織織の事があって、祭祀の時用いる幡をここで織り用いたとも、或は神功皇后三韓征討の砌手すから赤白二旗の旗を織らしめた事に因むとも伝えている。

社殿背後にはイスマキ原生林が鬱蒼と茂り、樹間を透る潮風が潮騒と調和する遥かに望めば、宗像連山は霞み眼下海面には大漁旗と満船飾の幟りがたなびく鐘崎の初夏は、織幡さまの祭りと共にやって来る。

論説　群羊と一匹狼

現代世相に見る種々のトラブルや非行犯罪を、進歩的文化人と自任する評論家は、現代人の欲求不満に因ると結論する。それでは過去の時代、特に封建の世の大衆に欲求不満はなかったのか。人間を無視拘束される点の多かった大衆は、やむなく欲求を自制して権力と貧苦に屈する外はなかったであろう。それに比ずれば、現代人の欲求不満は欲求過剰に因るとの逆説も成り立つ。

地上に落ちた一個の種子を考えると、その発芽と成長は、その環境や他の力の影響により大きな差異が生ずる。種子の具備する条件と運命は、人間の場合特に青少年の成育に於て、その生活環境や教育の適否に似たものがあると観察される。

比較的に恵まれた環境に育って、高等教育を受けられる者達は、条件の良い種子である。それが社会に立って自己の運命を開いてゆく上に、好条件を具備しているのに、一定の資格を既得権としてその上に安住し、人生航路の矛盾に屈従し、或は所謂欲求不満に堕して、教育の真価を忘却してしまう。

今春の大学卒業生に与えた学長の訓辞を三挙げてみる。いづれも学窓の若い理想を護持し、社会の矛盾に負けない正しい一匹狼となれ、ご都合主義の盲いた群羊になるなと、戒められている。

「若い諸君は矛盾を発見した場合に、すぐにそれを解決しようとあるが、短期間で解決出来る矛盾は少い。今の社会には多くの矛盾が散在している。年功序列なるものもその一つだ。その矛盾と対決する心を失ってはいけない。もし事忽れ主義に陥り、向上の意欲を失えば、将来その矛盾を解決し得る立場になった時には、もはや矛盾を矛盾と感ぜず、単に年功の上にアグラをかいた存在でしかなくなっているだろう」

これは京都大学の奥田学長。矛盾と対決する勇気をもて　激しい熱情と強い忍耐力が矛盾解決のエネルギーとして、長く心の中に燃え続けてほしいと、名声利害に捕われぬ一匹狼の正義観を貫けと説いているのである。

「私が恐れるのは、諸君が東大出という学歴で評価されていることに、安住してしまうのではないかという点だ。東大出を一つの身分と考えた瞬間、諸君の人間としての能力も清らかな良心もよまってしまう。今の日本は若い世代に対して学歴でなく、実力と能力を求めている。学歴と年功の急行バスに乗り、出世街道を走る知恵しかないとすると、その人生はまことに貧弱だ。日本には目なたと日陰があり過ぎる。必要なことはこの日陰を出来るだけなくすることであり、日常の害悪と戦うことであり、じみで謙虚な改革者になることだ。傍観者であることは罪悪だ」

これは東京大学の大河内学長。学歴の上に安住し改革を忘れた傍観者となるな、高い理念に生き身辺の清潔に勇気を持てと、ご都合主義出世主義の群羊とならぬようにと訴えているわけである。

一匹狼は必ずしも転業生活の異端者になることを、意味しているのではない。ヘソマガリとか偏屈とか、周囲との円満な協調を無視して我意を通すことを云うのでもない。即ち両学長の教訓の如く、学歴と年功の上にアグラをかく名利の安住者とならぬ一匹狼を指すのである。反骨隆々たゞ独り風雪に堪え、信ずるところバラの道でも敢然と歩み続ける健男児を望むのである。

いづれの道でも、大を成した人達は大概若い時から、徒らな妥協に落ちない気骨を持っていたようである。そしてそれを貫いた。中途に転ん倒しても、遂に大を成すこともなく敗に終ったとしても、男子の一掬の清水胸中をうるおす快味に無冒の快さがあろう。一匹狼には群羊の持たぬ苦悩と危険は附き物である。それに屈しない、それを克服する、一匹狼のみが知る苦中の楽。

ご都合主義の群羊も、おとなしく羊性の本性のまゝであれば、有害でもなかろうが、中には毒気のある鋭い牙をかくし、無情貪慾の角を秘めている場合がある。これが職域の発展、社会の安寧を陰に阻害しているとなると、排撃しなければならない。混乱する議会など、あまりにも牙と角を持った羊が多い。自己の欲求不満の解決のみに汲々として、双学歴年功を資本化して安住する利己主義育成主義の社会の責任と云わざるを得ない。

青年は天々毛色の変った一匹狼であってよい。今の日本のヤミに光明を掲げるのは、正しいものの考え方を失わない青年の勇気と能力である。

青年よ、意志の強い一匹狼になれ。過剰の欲求に溺れて、自らを育てる環境の条件を活用することを忘れるな。それが青年の「いのち」である。

（白　雲）

宗像大社御用達
祭具、装束
結婚式場用品　松島神輿製作所
京都市下京区北小路通新町西入
電話(371)八八六九番
九三七二番
振替口座京都一五八九一番

若葉香る春祭り

総社春季大祭は四月一日より三日まで厳かに斎行された。又、各種神振行事も行われ、社頭は数子名の人出に賑った。

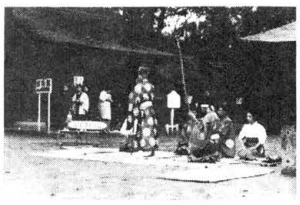
宵祭が雨中で奉仕され、心配されたが、一日の早朝には夜来の雨もからりと晴れわたり絶好の祭典日和となった。樟の新緑も香ぐわしき中を久保宮司以下神職、氏子代表が本殿に参進し、修祓に続いて久保宮司の祈念の祝詞が朗々と奏上された。更に大島村、河辺嘉十郎氏により「氏子奉幣供進の儀」が行なわれた。氏子奉幣の儀は春の大祭と秋の大祭に神都宗像の氏子が斎服を着け、神耻と同様に奉仕する慣しになっている。又古の手振りを伝える「風俗舞」が早川利道氏以下地元青年団の奉仕により行われ、玄海中学校女子生徒による「浦安の舞」が奉仕された。

折から一日は日曜日と重なった為交通安全祈願を受けられるオーナーと、都内の参拝の方々とで境内は一杯となってしまった。

「春の行楽にそなえて運転の安全を神様にお誓いしようと思いましてね」

「これから日増しに宗像さん詣うでが多くなるので、早めにお参りしたいと思い、今日は家族一連れで参りましたよ」

授与所の巫女さんと顔なじみになったのか話がはずんでいる個人タクシーの運転手さん。車のキーの落しものがありましたと届けてくれる中学生。人出が多いと様々な事が社務所を賑わす。若葉が人出にむせ返る様な一日祭であった。



写真上は薙刀による剣道大会
写真下は小笠原流の礼射

二日、十時祭典斎行、又小方百枝社中により拝殿に於て献茶式が行なわれ、天の真奈井の御神水を忌火でたき沸かし、南坊流の袱紗捌きも鮮かに、見事な点前を披露、うやうしく御神前に献げられた。

三日、境内玉垣内に於て十時より剣道大会が行なわれた。折柄しく小雨模様のコンディションとなったが、若き青少年剣士等の鋭い気合いは社頭に谺し、終始熱戦を展開した結果、一般の部は地力に勝る遠来の博多高校、少年の部は練習豊富な東郷小学校が優勝した。又、小笠原流古式の礼射が行なわれ、宗像警察署長、古賀教師の手により鳴鏑が放たれ、更に平川教師以下参加者による奉射が行なわれた。

清明殿に於ては日本舞踊の奉納が行なわれ、午後五時過ぎ盛大裡に大祭を終了した。

沖津宮現地大祭参拝について

来る五月二十七日沖ノ島鎮座宗像大社沖津宮に於て、日本海々戦記念日を卜して国家鎮護祈念の現地大祭を斎行致します。

尚御参拝希望のお方は左記事項を充分お含み置きの上、お申し込み下さい。

記

一、参拝者には沖津宮奉賛会費として一人につき、一口五百円以上の御寄附をお願い致します。

一、宿泊、食事の御世話は致し兼ねますので、あらかじめ御準備下さい。

一、遊山、遊魚等を目的とし、釣具等持参して便乗することは固く禁止致します。

参拝の心得は別に指示致します。

申込み要項

一、参拝御希望の方は、五月十五日迄、宗像大社社務本局に住所、氏名、職業、年令を明記して申込み下さい。

二、乗船者数に制限がありますので、人員超過の際は取り消し致します。

阿蒙少言

ここは戦前つわものどもが屯した営庭「そこで何しるかに厳しい週番士官の声「ふんどしの乾くのを待っております。」直立不動の新兵の答。五月の風にヘンポと飜える一条の白旗ならぬ褌が、日曜日のがらんとした物乾場に新兵の色気のない嫌製の魚の如く硬直した顔を笑っている。士官は褌の番兵という世にも珍妙な勤務振りに、ニコリとして去った。笑いごとではない。規律のやかましい軍隊だが、裏をかえせば、褌タオル石鹸などの泥棒ゴッコが日常の茶飯事。針一本不足で所持品検査に大目玉を食った新兵君、日曜日の外出を楽しむどころではない。善悪の批判はとも角、昔の軍隊生活に得るところもあったことを、現代の青年に語っても容易に釈けまい。○こちらはレジャーを楽しむ行楽客が陣取る車中「骨まで愛してほしいの主」と、メートルの上がった若い一団「バカくしい歌です。ほんとういやらしい」と、明治婆さんの不満。昭和組ののぼせあがった海々べらな歌の合唱も、入れ歯ガタくの艶のない明治連の感覚話も、ともに気に入らぬ。気に入ったのは、片隅で静かに明日の生活設計でも語り合っているらしい新婚と見える二両人の笑顔だけ。○そちらは甘さの抜けたゴタツキ家庭「十時に腹を立てるから、十時二十分に仲裁に酒持って来てくれ」と、立腹の予定まで計画されては、人生ほろにがしという外ない「夫婦相和シ朋友相信シ」ではいけませんのか。○卒業・入学・就職・結婚と春は民族の大移動期。それに加えて連休進行の酣。機動力の由長はありがたいが、人間の頭の追求はたかだろうか。粗茶一服、静かに庭前の花一輪に、何かを教えてもらいたいと考える一時がある。

（白　雲）

宗像大社献詠歌会詠草

四月二日　於社務所詠草到着順

大　濠　江崎　琴子
春雨のけぶる並木の豪ひを友のつどひに心走せつつ

香　椎　織田　椽雨
いうぜんと浮ぶ白衣のくぐひ島湖上の仙か将た聖かも(白鳥を思う)

福　間　森　八蔵
志なやかに椎砌の青々と風に靡くや女徳たうとし

福　岡　高橋　昇
農な利月の世界に何披す足っぬは心物は余るを

門　司　永島　まち
神前に色こき庭の真榊を捧げて祈るけふのよき日を

福　岡　吉田　信夫
天ケ瀬は春浅かれど水増せる荒谷の音を雨と聴きゐる

津屋崎　白石百合蔵
妹の見舞にくれし補聴器に異なる鳥の声うけて聴く

陵厳寺　真鍋　万三
現代の文化生活驚けり物心二ツを如何に思ふらん

福　間　井原　元彦
春なれや手折りて上げし神棚の柴の小枝に白き花咲く

宗　像　八波　五月
或る時は命の支えともはた今は心のかての娘の晴着縫う

戸　畑　田中ハツセ
子等二人旅に出て行き我れ独り静かな部屋にほつねんと坐す

宗　像　片山　一
しずかなる晴嵐破り有放の前奏なかれその日はじまる

田　島　白雲　山人
大君に藻葉たてまつる六十路なる御身すこやかにませと祈りて

宗　像　小野角次郎
春彼岸白髪の春も画像見て亡父母偲び珠数の合掌

宗　像　小野　花居
幾度か子に甘がまれし雛段の春日さんく緋毛氈の繁ゆ

宗　像　片山　朔子
些細なる事にも傷つきやすくいる夜を庸突く春雷の鳴る

山　口　宗像太郎坊
ひそやかに花の散りゆく池の面に時折の大き波紋ひろごる

コロラド　浦野　薫
観光の記念写真に胸おどる雄大なりしよナイヤガラの滝

勝　浦　永島　計七
海鳥の浮きつ沈みつこの朝満汐静かに寄せ迫り来る

筑　邦　津留崎初子
弟の電話の声は父母の老衰のさまつぶさに伝ふ

宮　田　北原　君子
窓越に赤芽柳のしろかねにうろいし見ゆ日蔭の庭に

遠　賀　長畑　房江
昼深く冬日さし入り床頭の窓咲の花紫匂う

東　郷　藤崎　辰子
陶然と教え子達の肩により歌いながらに老師は泣き給う

若　松　大高　岩吉
つぎくに心配事の多き身も神の御加護でありがたきをしる

香　椎　桜井　ツ子
入院の夫に告げむと聴きてなりけさ裏萩に透るうぐひす

勝　浦　永島　文子
春雷を伴う雨の長けれはつぼみもつ鉢家に取り入る

宮　司　新海　邦男
隅の石味よく活きて会心のえみを湛える甚かたき憎し

大　井　安部　重郎
老妻の一人で飾る古ひいな嫁ぎし娘等とありし憶ふか

大　井　安部　静子
雑草の花とりどりに美しく抜きと之事をしばし忘れき

大　井　吉田　杏子
鍬おきてしばしいこえば菜畑の花溢れ咲き蜂のむれ飛ぶ

大　井　木原　房子
春来り緑さまし池の面に音なき雨の波紋つづけり

吉　田　占部　由久
遠近の花のたよりもきこえきて例年より早き春のおとづれ

大　島　養父　峯子
信濃よりはるばる来たり父が摘む島のたらの芽よみがへる食む

名　島　久保　房江
鶯の啼く聞きけば急ぐとも立ち停りて待つ次のひとこゑ

吉　武　原田　松代
山畑の菜種の花も咲き初め雨降りつつまこりて居しまに

吉　武　原田　リノ
川土手に枝を張りたるせんだんの芽吹くみどりを見つつたのしき

（四面につづく）

「この頃は寝るようになって起床は毎朝四時半です。以前は三時四十分に起きて、一番電車で出勤、これを夏冬問わず、三十三年間つづけました。」

先づ四島社長の開口一番がこれ。朝寝坊なら人後に落ちない若い訪問者は、メモの手を止めて唖然たる顔視を老社長の顔に向けた。色つやの良い颯爽たる風貌は、八十六歳なをカクシャクとしてなどの表現を受付けず、戸籍年齢と老の部類でも、体躯も活振りもまるで青年、老社長などと言ったら機嫌が悪いに違いない。

「八年前、福岡市営の平尾霊園の一部二十一坪を三十三万六千円で買い、四坪の納骨室、一米半の石段に名刺受」

と、有名になってきた墓という文字が全く刻まれていない無類の墓標の解説。祖先に対する最上の祭は、道を修め業を励むにあり、と書かれた表面から側面裏面に至るまで、八十餘年の起伏の難みぬ出た珠玉の金言列挙。恐入る外赤穂義士の名札を一本づつさがさった義士の名を見て歩く。大石内蔵之助から寺坂吉衛門まで、四十七本を義物語。小学生の時、二階の窓から飛降り、十七歳で単身饅米し働きながら夜学通い、十九歳の時事業に失敗して鉄道工夫、三十八歳で帰国するまで二度死線を超えた話の裏に、不撓不屈の真剣錬磨が窺われる。九十九転び百起きの信条、死は最後の吉日なりの達観、いづれも一つの人にしてこの言葉に集約されている。

「自宅を二宮荘天荘と名づけている。勤倹貯蓄の神二宮尊徳、勇気断行の神宮本武蔵、犠牲仁愛の神佐倉宗吉郎、約束死守の神天野屋利兵衛、この崇拝する四人の頭字を取った名づけです。この内佐倉宗吾郎の真似が出来ないのを残念に思っています。」

話のケタが違う。なま半かの宗教人など、とても太刀打ちの出来ると云われる。死は最後の吉日の一句に対して、下手な賞賛をした坊主が完全に敗北したのも、宜なるかな。現代の若い人に対する）意見をと訊ねると、

「レジャーなどと言うが、遊びに熱中して、自己の将来も国家の繁栄も考えていない。栄華の夢をむさぼったローマの轍を踏んではならない。」

県庁と相対する社長室、その応接台に灰皿が置いてあう筈がない。壁面に掲げられた行是は、無駄な煙の発散など許さない。

行是に曰く、「人生とは日々是真剣勝負、負けたら地獄だ、追いつけ追い越せ、仕事と取り組んだら放すな、殺されても絶対に放すな、目的貫徹までは」

と。まさに信念の鬼、目的に向かって一切の障害を突破して猛進する獅子の宣言である。単なる強がりの張りこの虎の空元気ではない。その決断と勇気は、信念の基盤の上に企画される綿密な研究頭脳から発している。

やがて若い足取りが先導して、三階の階段を降り、入口の扉を開いて見送りである。若輩への心尽しはいつもと変りはなかった。恐ろしく、又懐しい好々爺二宮荘天荘先生の顔を、改めて眸におさめて辞去した。

× × ×

宗像 談話室

死は最後の吉日

——福岡相互銀行 四島社長訪問記——

この頃、朝日新聞が知名士の学徒時代を連載していた。その第一話を楽しむ姿が目に見えるようである。足腰の達者なことが、健康の第一条件だそうだが、朝夕の労働がこの人の健康と慰安と斗魂を培っている。

「自宅を二宮荘天荘と名づけている。勤倹貯蓄の神二宮尊徳、勇気断行の神宮本武蔵、犠牲仁愛の神佐倉宗吉郎、約束死守の神天野屋利兵衛、この崇拝する四人の頭字を取った名づけです。この内佐倉宗吾郎の真似が出来ないのを残念に思っています。」

話のケタが違う。なま半かの宗教人など、とても太刀打ちの出来るお相手ではない。死は最後の吉日の一句に対して、下手な賞賛をした坊主が完全に敗北したのも、宜なるかな。現代の若い人に対する）意見をと訊ねると、

「レジャーなどと言うが、遊びに熱中して、自己の将来も国家の繁栄も考えていない。栄華の夢をむさぼったローマの轍を踏んではならない。」

県庁と相対する社長室、その応接台に灰皿が置いてあう筈がない。壁面に掲げられた行是は、無駄な煙の発散など許さない。

行是に曰く、「人生とは日々是真剣勝負、負けたら地獄だ、追いつけ追い越せ、仕事と取り組んだら放すな、殺されても絶対に放すな、目的貫徹までは」

× × ×

境内諸施設を整備

——昭和四十一年度新規事業計画——

当大社では例年新規事業の計画を立て、境内の整備、施設の充実を計って来たが、本年は去る三月の責任役員会に於て次の計画が議決された。

○頓宮整地

先年神湊の草崎半島に頓宮建設用地を整地し、具体的な設計プランを立てることになった。

○田島小学校々地買収

辺津宮境内隣接の小学校が、愈々本年八月、神湊小学校と統合され玄海小学校として、両校の中間地帯の牟田尻部落に移転することになった。この校地は当社の旧境内地で第二、第三宮の禊地である関係上、本来の姿による為本年度中に、同校地を玄海町より奉納して頂く。尚これに対し当社は町教育施設費として金員を寄附する予定である。

○中津宮参籠殿

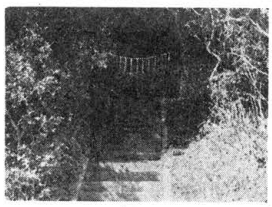
大島中津宮の参籠殿の損傷がいちじるしい為、新年度に於て修理を行うか、解体新築するか研究して施行する事になった。

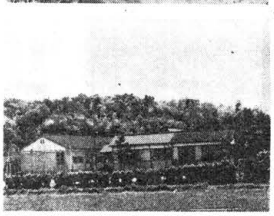
○神職職舎建設

去る昭和三十八年に職舎を五戸建設し、昭和四十年度には独身寮を六棟建設したが、神社の発展に伴い神垣が急増した為、新たに垣舎を建築する予定である。旧年度に於て田島片脇に三百余坪の宅地を購入したので、この敷地に四棟の建設を行う。

○国有地買収

神湊の頓宮建設予定地のすぐ下に、国有財産になっている細熊神社という社がある。この神社は古来、当大社と田緒の上で深い関係がある神社なので昨年より買収の手続きを行って来たが、本年は許可になる予定なので、頓宮整地と並行して買収整地の予定である。





宗像大社

独身寮完成!!

かねて懸案中であった当大社の独身寮が、去る四月十一日完成した。場所は境内に隣接した旧社家の屋敷あとで、俗に池浦屋敷と称し、当大社僧座の池浦氏が代々居住していた田緒深い敷地である。今回は六軒を建設し内装を洋式にした。一室が約十平方米で全面に真赤なカーペットが敷かれ、ベッドと洋服ダンスが備品として置いてあるので、布団を一組持参すれば簡単に入居出来る。また食事は従来通り大社の食堂で行い、食費は一日三食で二カ月二千五百円と格安、その上寮費は無料なのでまさに独身天国である。

既に独身金員入居が終り、各々の部屋ではテレビやステレオを置き、独身生活を謳歌しているが、なんと云っても一人身のせいか、室内に柔かいムードがないことは隠せない。

ただ困った事はもしも恋人が現れても、すぐ碍りに五人の独身侍がいる為に六人の女性が揃わない限り、美女一人の訪問は一寸不可能である。

今回の独身寮の完成、また既報の職舎建設用地の買収などで、当大社の職員厚生面は一段と向上し大社の発展に伴って体制を整えてゆく計画である。

社務日誌抄

四月一日　春季大祭総社祭　午前十時より斎行、宮司以下全職員奉仕。

風俗舞、浦安舞奉納さる。

徳山出光興産より五十名参拝。晴天にめぐまれ、団体参拝が多く見られた。

二日　春季大祭二日祭、午前十時より斎行、宮司以下全職員奉仕。献茶祭、献詠歌会等行なわれる。

三日　王子神社春祭　大野

櫂祢宜奉仕。

剣道、弓道大会、境内広場に於て、奉納舞踊等清明殿に於て夫々行なわれた。

出光興産千葉製油所出光会館宗像神社遷霊祭、楠本祢宜、宗像権祢宜、山田出仕奉仕、出光千葉製油所桝田正夫氏、千葉県宗像神社宮司春取守正氏。姉崎神社宮司、海上自衛隊久保参列神饌奉献して帰京。

五日　沖中両宮春季大祭、中津宮に於て午前十時より斎行さる。久保宮同以下五名奉仕。

徳山出光興産より、三十八名参拝

宗像大社御用　綜合印刷
有限会社 大和印刷所
宗像郡宗像町東郷　電話　宗像局2027 有線277—1番

五月のまつり

五月一日　月次祭　午前十時

五月五日　子供祭　午前十時

子供の成長を祝い、子供の人格を重んじ、子供の幸福をはかる日である。未来の社会を背負う責任と権利とをもっている子供たちが、健康で正しく、明るく、すこやかに育つよう国民全体が考え、その実行を進めるための努力を新たにする日で、鯉のぼりと、日の丸の旗を掲げて祝う。

端午の節句といって、むかしは旧十一月の吉日を選び、三才の子供の髪置、または袴着、袖着の祝を行なった習俗である。

五月五日

「浜宮祭」「皐月祭」

午前十時、十一時

当社の境内社に「浜宮」と「五月宮」とがあり、共に釣川の川口を挟んで江口ノ浜と五月浜とにある。

大昔からここに於て宗像宮の五月会（さつきえ）と八月（旧）放生会等の神幸祭が行なわれていた。亦郡内七十五社、百八神の神輿が大会合の祭りを行った故事を偲んで現在も行なわれる春の〝みそぎまつり〟ともいうべきもので、神道では「浜降祭」「磯降祭」といって重要な祭儀である。

五月十五日　月次祭　午前十時

五月二十七日

沖津宮現地大祭　午前十時

明治三十八年同日、沖ノ島周辺で行なわれた日本海大海戦の勝利を記念して、沖津宮の現地に於て「国家鎮護」の大祭を行う。

春雨に煙る許斐岳

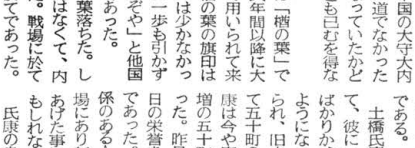
若葉匂う四月三日、春雨の中で王子神社の春祭りが斎行された。

このお社は、宗像郡宗像町南郷にある許斐岳（二七一米）の頂上に鎮座せられ、宗像大社唯一の直轄境外摂社であり、現在でも例祭（陰暦三月三日）には大社の職員が出向して奉仕することになっている。

宗像郡の中央にそびえる許斐山は、天承元年（一一三一年）、宗像大宮司氏平が、ここに城を築いたのち、間もなく奉祀せられ、許斐氏の守護神として代々の尊崇奉斎を受け現在にいたっている。

当日は、折悪しく雨天のため、許斐岳には登る事が出来なく、山すその遥拝所に於いて祭典が執り行われた。薬条と降る雨、樹間を通す鶯の声、その間を祝詞は続く。祭典後、王丸部落区長宅に於いて地元総代を中心に直会が開かれ、山の幸に舌つづみを打ちながらやがて来る秋の豊穣を祈った。

午後二時、直会も終り王丸の里をあとにした。春雨に煙る許斐山は、一幅の墨絵を見る様であった。



写真説明　左端頂上附近に許斐祠は中央にある。許斐城跡があったとも云われる。苔むす礎石にも許斐城の攻防の跡が偲ばれる。

楢葉の末（七）

宗像の家中が新興勢を固めるために旧主筋の血縁を沫消していた間に、山田の怨霊はさまざま奇異をあらわした。

○かの大釜被殺以来、山田の墓所が焼土のように荒れ出した。

○すぐそばの白山城の古い水穴が鳴動する。

○白山城の櫓の石垣がわけもなく崩れ落ちる。

○千代松丸ら最後の地、鞍手郡山口村の木ノ畑の森に夜な子供の泣き声がする。

○家中の山田事件関係者及びその家族が次々に闇死する。

○領内の疫病が仲々終息しない。稲の不作までが怨霊の祟であると喪やかれた。何れも目に見えないものにおびえおのの、暗い気分の毎日であった。領内では、大きな声で話す者も無いくらいであった。一連の事件の連続も、一応は終結を見はしたものの、家中の者たちは複雑な心境であった。

今の正義のために昨日のそれを否定することは、表べは納得した様にしていても、内心は「譜代の恩顧」を思い、何とも承服出来ない点もあるのであった。主君氏貞は未だに幼年である。氏貞の後楯となっている者が中国の大守大内義隆を倒した踊入道でなかったら、これ程の事になっていたかどうか分からない。何とも已むを得ない時世であった。

大宮司家の紋所は「楢の葉」であった。これは建武年間以降に大宮司家の家紋として用いられて来た。吉野朝以来、楢の葉の旗印はどこの戦場でも後へは少かなかった。外敵に対しては一歩も引かず「宗像の鬼神の来るぞや」と他国に恐れられた旗印であった。

その楢の葉が、一葉落ちた。しかも、外敵の故にではなくて、内敵のためにであった。戦場に於てではなくて謀略に於てであった。

事の始末に功労のあった寺内治部丞に対しては感状が下された。

豊州に於て宗像民部少輔殿（氏続）生害の由、其の間ことあるによって、即時、沼口に至って取り懸られ候と雖も、干代松丸こと退出候、落所の段相紛さる処、若宮に行きて取り退かる る田を申すの通り注進、御調略成され、御存分に任せられ候、彼の義に就ては度々これを心懸け、御祝着の趣、能々能く申すべき旨に候、恐々謹言

天文廿三年三月朔日

（国分若狭守）　直頼

（吉田駿河入道）　良喜

（中村筑後守）　尚道

寺内治部丞殿

土橋氏康は此の度の功労によって、彼に二心なきことを立証したばかりか、急に家中に重用されるようになった。彼は越前守に任ぜられ、旧来の知行二十五町に加えて五十町の恩賞を与えられた。氏康は今や家中の重鎮であった。加増の五十町は故氏続の隠居料であった。昨日の零落に引きかえて今日の栄誉を得た彼は、得意の絶頂であった。家中でも、旧主筋に関係のある人であるし、そういう立場にあり乍ら、尚も今度の功績をあげた事に対する畏敬もあったかもしれない。

氏康の身分は奉行人として磐石であった。公事の裁判もよくさばけ、戦場に出ても仲々よく働いた。この彼が後に狂乱同様の最後を遂げるのである。

領内家中に漂うもやもやしたものがふっ切れた訳ではなかった。この様な時には諸国の間諜が活躍していた。宗像の内情は隣接の諸家に間抜けになっていると思われねばならなかった。宗像の家中は、一応の内愛をおさめて、これからは不時常時の外寇に備えねばならない。軍家（ぐんけ）の詐謀、占部をはじめ、気脈を通じている西郷庄の河津一族らも油断なく備えていた。近頃整備した神領の諸城に於ても満を持して構えていた。

時に、宗像の間諜らは、中国の動静を探っていた。

中国は、陶入道が覇者となって以来、大内晴英を主君に立てたとは云えど、その実力者は飼く迄も陶入道であった。彼の方も、近頃漸く一仕事が済んだところであった。というのは、彼も彼の敵を屠っていたのである。旧大内家の恩顧を思う者、陶入道の威令に従わぬ者らは厳しく探索し、用捨なく斬り捨てた。これを快く思う者は陶を除こうとする勢力があったことは見逃せない。陶然たる勢力を持って虎視眈々と覗っていた者に毛利があった。毛利の腹のうちは、或いは陶入道も知っていたであろう。だが、難癖をつけて手出しをすべき材料がなかった。

時は流れ、人の心も動いていた。間諜らは唯の探索のみを任務とする者ではなかった。宗像の家中の或る者の命を受けた間諜の一人はすでに毛利との連絡に成功していた。陶の腹臣と見られていた江良丹後守が毛利に内通しているかのごとき噂を陶入道に与えてしまったのも間諜の仕業であった。

（つづく）

宗像四郎氏貞（三十六）

山下半可 作
福田長庵 画

春の交通安全運動始まる

〝一億の心にともせ無事故の灯〟

来る五月中旬から全国いっせいに実施される恒例の交通安全運動に先がけて、ことしも春の交通安全福岡県県民運動が、去る四月一日から五月三十一日までの二ヵ月間、事故をなくす県民運動本部を中心に県警察本部、交通安全協会各自動車団体、マスコミ等の協力を得て大々的に展開されている。

この運動は、人命尊重の見地から、すべて県民の正しい歩行、安全な交通を習慣づけて、悲惨な交通事故を一掃しようという目的から実施されているもので、今回の運動には特に力が入れられ、さる三月十日から約三週間余り準備期間を設け、二ヵ月という今までにない長期の運動を展開している。

又、福岡市では博覧会や例年人出の多い行楽シーズンにあたる為長期運動をくりひろげている。

この運動の実施内容は七項目からなっているが、主として歩行者の安全、横断道路の一旦停車、小中学生の自転車乗用による安全運転に重点が置かれているのが今回の運動の特色である。

一、歩行者の正しい横断、右側通行、踏切通行の励行。
一、自転車乗用者の正しい右（左）折、一列進行、夜間点灯、ブレーキ点検の励行。
一、自動車等の運転者の横断歩行者の保護、飲酒運転の禁止。
一、事業主、雇用者等の労務、人事管理の適正。車輌の完全整備の励行。
一、家庭や職場などでの安全な通行等、交通事故防止の話し合いの励行。
一、新入学（園）児童生徒の特別教育。

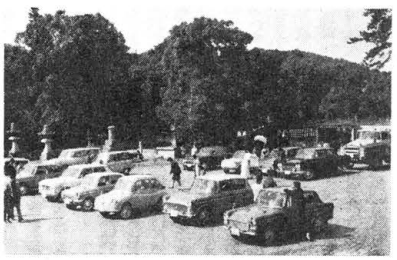
この様な運動が展開される背景には、年々増大する車輌と交通事故の急激な増加がある事は論を俟たない。

昭和四十年に全国で発生した事故は五五七五一九件で、件数は前年の最高記録を更新している。

特に福岡県では、東京、大阪等他府県が減少の傾向を示しているのに対し、逆に増加傾向をたどっている事は注目すべき事で、福岡県が他県に先がけてこの運動を一カ月早く展開したのは、かかる事由によるものとされる。

各人が協力して、交通安全、無事故にしたいものである。

当大社では、参拝された方々の



荒潮に育まれた玄海わかめ献上さる

去る三月二十三日、昭和四十一年の若布献上が行なわれた。これは郡内七浦漁民の手により、早春採取された玄海わかめを、賢所、天皇陛下、皇太子殿下に献上する神社例の行事である。本年は、久保宮司、養父祢宜、田中大三郎氏（神湊漁協組合長）広渡助兵衛（福間漁協組合長）の四名が桐箱に収めた献上の若布を捧持して上京した。二十三日朝東京駅着、直ちに丸の内パレスビル内の出光興産本社に赴き、小憩の後、自動車で、坂下門より皇居に参入する。立ち並ぶビル街とは対照的に、大内山の松の緑が一きわ鮮やかに目にしみる。一行は先ず宮内庁掌典部に赴き、矢尾板掌典長代理に献上の挨拶を述べ、第一応接室に於て徳川侍従に面会、久保宮司より陛下へ献上の若布を捧呈する。

次で賢所へ献上のため車で吹上御苑に赴く。宮中三殿の参拝を特に許された一行は、斎館に於て白衣をまとい、矢尾板掌典の案内で神前に進んだ。玉砂利を敷きつめ、塵一つなく掃き清められた御神域は清浄、静寂のうちの壮厳きわまりない。参拝の後、矢尾板氏より陛下の篤い敬神の御日常を拝聞し、一同深く感銘を受けて退下した。

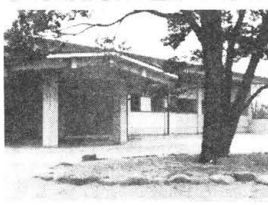
皇居での献上を終えた一行は、次で東宮御所に向う。重厚、荘重な皇居の雰囲気とは対照的に、近代的明るい御所のたたずまいは、港宮、礼宮親王を囲まれた若き皇太子殿下御一家御団欒の状が想われ、ほほえましい親しさを感じさせる。黒木侍従に献上方を申上げ、午后二時過ぎ、御所を退出した。

感激のうちに無事献上の儀を終えた一行は、任を果した喜びと安らぎに包まれて夕刻麻布の宿舎に落着いた。

寒風未だ肌をさす三月のはじめ、玄海の磯から刈取られ、一枚一枚丁寧に干し上げられた七浦漁民の真心ともる早春の若布は、ここに晴の献上の日を終えたのである。

当社宝物館収蔵の御神宝の数々からも窺い知れる如く、往古、裏伊勢と称されて、特に皇室の御崇敬厚かった宗像大社が、いま郡民のまことを結集して行うこの若布献上は、この歴史的紐帯を再認識する意味に於ても、そして更にこれが国運の進展、民族の繁栄の因に繋がる意味に於ても極めて意義深い行事であるといえよう。

本誌を通じて、御協力頂いた七浦漁民の皆様はじめ、関係者各位に衷心より感謝の意を表します。



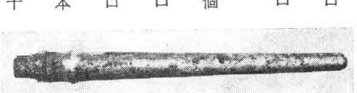
宗像大社宝物館
宝物を訪ねて

沖の島神宝　武器

神島沖の島から出土した数々の神宝の中に武器も含まれている。ここに奉献された武器は、権威の象徴として作られたものがあり、非常に精巧絢爛たるものがある。

次に出土した武器の数量を表にすると左の如くである。

挂甲	一頭
盾中央鉄板	一枚
鉄剣	一二口
鉄刀	三一口
三輪玉	一七個
雑形鉄刀	一六八口
鉄矛	三一口
金銅銀装矛鞘	一個
広鋒鉄矛	一口
鉄槍	六口
鉄鏃	二三五本
鞘	若干



等は代表的なものといえよう。又ここに奉献された武器は、実戦に使用する為ではなく、神への献納品として作られたものである。献納品の中には、戦に使用出来る武器もあるが、簡素化され、形式化された武器もある。これらのものを形代と言い、その中で雑形鉄刀奉名を記帰し、毎朝安全を祈念している。

本年の交通安全スローガンは左の通りである。

（一般）
○世界の願い交通安全
○一億の心にともせ無事故の灯
○歩く身に乗る身になって思いやり
（歩行者）
○もう一度よく見て渡れ手をあげて
○歩くまい車のすぐ前すぐうしろ
○危険です路上の遊び立ち話
（運転者）
○ブレーキは早目に!!　スピードは控え目に!!
○手をあげる子供はあなたを信じてる。
○追い越しはよく確めて合図して

徳山宗像神社祭斎行

陽春のさる四月七日、徳山市出光興産、徳山製油所の庭園に鎮座する宗像神社春祭が斎行された。当日の朝は夜来の霙もやみ雲一つない晴天となり、新緑の芝生は陽春の日に映え、宗像神社の社殿と製油所の近代的な建物が自然な調和をなしている。

祭典は、企製油所長熊谷氏をはじめ社員多数参列のもとに、当大社より久保宮司他四名の職員、地元より遠石八幡神社の宮司が奉仕して始められ、修祓、斎主祝詞奏上、浦安舞、玉串奉典と厳粛裡に終了した。

漁業で賑う沖ノ島

当社沖津宮は海上四十九粁のかなたに浮ぶ絶海の孤島にある。

この島が漁業で賑っていると云う最近の話題をお伝えしよう。

沖ノ島海上附近は立網漁業の最盛期で連日沖の島港は漁船の出船入船で賑わっている。月次祭終了後の港内に島根県美保関の中村網漁船五隻が入港、船長赤木市次氏外一名が参拝された。続いて二日には宗像郡玄海町大島から立網漁船六隻が入港、大島からの船は島に住込んで漁をしているのを合せて三十余隻となり港内は盛況である。だが春の玄海の荒波は荒れ易い。緩やかな夕月を仰ぎ乍ら明日の天気がかならずしも晴朗であるとは限らない。一度風が吹き出すと高浪はテトラポットの避難港を高々と洗う、四月の十五日間の中、七日間はこの高浪のため、出漁が中止された。天候に恵まれた時の神島はすばらしい。うららかな陽炎もえる春日和の中、鏡の様な波静かなる水面に新緑の島影を写して南国の趣きを楽しませて来られる。四日午后五時春季大祭斎宮祭が斎行された。当日は朝から東北の風強く小雨降り海上は一面白浪立っていた。だがあけて五日は大祭を祝福するかの如く快晴に恵まれ、午前九時祭典熟行。多数の献魚、初穂料が供えられ、沖ノ島出漁仲間、避難港建設業者黒瀬組は臨時休業して大祭を祝い、こぞって参拝、祭典終了後大船頭宅に於て直会につった。八日迄快晴に恵まれた天候も、九日朝より漸次天候悪化し風波は高まる一方で全漁船休業、近海に出漁中の船も一斉に避難する有様で、この悪天候は十一日迄続いた。

三月末より参道石鳥居附近より石段登口の土砂くずれ及び雑草等の取除作業を出漁の合間にしておられた大島住民中村泰三氏は十五日余の作業を完了、参道は見違える程きれいになり、参拝者に便利になっている。中村氏に労を感謝する次第である。これから神島沖の島は新緑益々深まり、鳥の鳴き声も長閑に一年でも最もよい季節を迎える。ともあれ続なす神秘の孤島は雄々しい風雪にたえて玄海の荒波の中に世の平和とわに安からん事を願っている。

町村往来

◇郡護国神社春季大祭…2日午前11時、玄海町田島の同社。
◇宗像青年会議所総会…3日午前9時、町村会館2階ホール。予算、決算承認、役員改選など。
◇大島村青年団総会…6日午後7時、村公民館。予算、決算、事業計画承認、選挙法の研修など。
◇赤間保育園入園式…7日の予定を6日午前10時からに繰り上げた。
◇福間電報電話局起工式…8日午前11時、福間町工給の新築現場。
◇石津さんを表彰…古賀宗像署長は6日津屋崎町宮司飲食店業石津博敏さん（三〇）に金一封を贈って表彰した。
◇吉武小へ寄付…宗像町吉武校区の高山茂喜さんら、ことし四十四賀を迎えた三十人は、学校の備品拡充にと一万三千円を寄付。
◇宗像町吉武こども野球大会…10日午前10時、吉武小学校庭。公民館ことに野球チームを結成。これを記念しての大会。
◇津屋崎町民野球大会…10日が悪天候のため準々決勝と決勝戦を17日に延期した。午前9時から津屋崎中学校で。
◇手芸講習会…14日午後1時、宗像町久戸公民館。農家の主婦にロウケツ染めなどを講習。
◇老人ホーム緑風園の誕生会…15日正午、宗像町吉武の同園。
◇神興、上西郷幼稚園が町営移管…福間町の両幼稚園がともしから町営になり、どちらも12日開園式を行なった。

（西日本新聞より）

新築完成
――玄海の味・生魚料理――
みなと荘
宗像郡玄海町神湊番
電話　神湊　56

宗像伝説　其の六十
しゝおて

「ししおて」という所がこれほど栄光に満ちた所と知る人は少なかろう。

博多、新宮、古賀と松原が海と接し居所をしながら津屋崎まで行くと大きく弧線を描いて玄海にて「ししおて」はある。陸路をたどれば神湊の町並から出はずれたところで道は山路と海沿いの道に別れる。この分岐点から先が草崎と名づけられる岬である。「ししおて」に行くには、山路をとった方が都合良い。坂を上れば豁然と海が開ける、勝浦浜である。浪の静かな干潮の日、磯づたいに岬の先端に赴けば、草崎山が真直ぐ海に落ち込む所にたどりつく。里人はここを「ししおて」と呼んでいる。

仲哀天皇の御宇、九州に於て熊襲の反乱が起った。急を告げる使いが、北陸路を御幸中の天皇のもとにもたらされた。

為に、急遽熊襲征討の軍を起され紫の香椎を出宮と定められた。時に天皇不慮の病をえられ崩りました。皇后息長足姫尊神功皇后は神託により熊襲反乱の根元である三韓の御征討を決意された。この時、皇后は御懐胎して甲をつけるのに難渋をされる有様であった。この為皇后は宗像の潮水にて御身を清め神々に祈請せられた。その験あってか肉は落ちて容易に甲を着けられる御身にならせ給うた。その雄々しい御姿で神々の加護により事なく三韓の征平定が成ったと言う。以後、その御身を清められた場所を肉落（ししおて）と呼ぶようになった。

これより年を経ること千余年の後、すなはち蒙古襲来の砌り希有な出来事が、この場所で起った。

中央アジアの一角より起った一陣の風は、雲をよび風を発き起し世界中を荒れ狂わせた。一代の英傑大祖ジンギス汗の孫、フビライ陸した元軍は陸路、海の中道を経て博多へ進攻しようとしたが元軍も亦死闘がくり返された。

博多湾で戦闘が行われている間元軍の一部は宗像、遠賀の沿岸を襲撃せんとして海路を草崎の岬を目指して進んで来た。すると突如岬の突端に金色の甲を着け旗鼓堂々たる軍兵が出現した。これに怯れおのおのの元軍は直ちに船を返して立ち去った。元軍の船影が消える頃、水煙が茫々と上り、その一夜は暴風雨が雷鳴をとどろかせ狂乱怒濤は、博多湾頭の数千の軍船を悉く呑み尽した。時の人は云う「宗像大神随神を従え現れましし為に敗れしか」と

「ししおて」の春は鶴鳥と共に訪れる。どこからともなく群れ集い群っては呼び、呼んでは群り、のどかな春の日を浴びて双何処へか去って行く。秋風が海を渡る頃落日を満身に受けた断崖は、数千年の歴史を歌いつつ陽と共に垂直に玄洋へと没して行く。

に帰をの国号を元と称しアジア全域を版図に収める大帝国を建設し更に日本をも併吞せんとして、数次に亘り時の熱権北条時宗の下に諭使を遣わしたが時宗これに応ぜず文永十一年十月元軍の来襲を見るに至った。しかし九州武士団勇武と、大暴風のため数万の元軍兵はあえなく博多湾の藻屑と化した。ついで元は再び弘安四年五月前回に倍する軍兵を催して襲来した。先ず五月下旬対馬を占領し六月初旬博多湾にその姿を現した。博多湾の海岸には、先の文永の役の後、堅固な石塁が築かれ九州諸国の武士を始め関東武士をも参集し防備を固めていた。元軍はこの日本軍の防備を察知したか、九州本土の上陸を回避して、志賀島、能古島に上陸を開始し、すきを見て本土を突こうとした。日本軍は舟を出して敵船を襲ったが大きな戦闘は得られなかった。上

宗像大社献詠俳句作品集（四十）

春の雷鬱の愚穴すぐ蔽く　津屋崎　毛利　夜潮
〃　久羽　文王
寺女房あをき屑引き花菜梅雨
〃　西住喜三郎
春愁や歩けば同じ人と逢つ
〃　占部　河童
芽木の天暗き庫裏より顔を出す
〃　鶴　美津男
熱きさし雨よ密の柿若葉
〃　浜津　鴻浪
春塵の眼鏡拭く喪の言葉のべ
〃　浜津　千秋
簡の夜つぎく別れ独りなる
〃　安部真佐子
桜吹雪ヒットを打てぬ子にあふれ
〃　勝　光舟
密議の森チカチカ春の星棲まわせ
〃　井浦　良介
熱拗に花咲く日暮枝傷む
厚　狭　篠田　南洞
満開の花に晒ある桜かな
東　郷　小野　花居
径の辺に落花吹かれて宮地行く
〃　小野　淡坡
鵯や森に抱かれて神鎮む
宝蔵殿　隣　船　俊
参道仰崇華表天
荘観神勅社頭前
完成宗像宝蔵殿
祝々幾千後世伝

日立と共に五十年（四）

倉田主税会長の半生記

「全部が結束しなければ負けるぞ」主税はそう行って経営側内部の結束を固めることに努力した。幸い、この時の争議は「早急に解決せよ」という当時の至上命令であるG・H・Qの指令により組合側も軟化し急転妥結した。

二十三年の秋にも主税はストライキにぶつかっている。この時には一日二、四〇〇カロリーを算定基準とする賃上げ要求がストの原因であった。

情勢を察知した経営側は会社の機先を制しようとして大幅な賃上げを要求して火蓋を切った。人員整理の苦境にある会社が、到底その要求に応じられないことはわかりきっているのだ。然し要求は要求である。主税たちはそれに対する回答を手渡した。勿論〝ノー〟の回答だ。同時に主税は会社の現状を率直に訴え、経営合理化のため全面的に協力を求めたのであるが、組合側は断乎としてこれを拒否した。こうなっては所信を断行するほかない。主税は交渉打ち切りと、人員整理断行を組合側に通告した。被解雇者に個人通告をしようとする部長、課長をとりかこんだ多数組合員は、口ぐちに怒号を浴びせかけた末、ついに暴行沙汰にまで脱線したのである。各工場の周辺には応援の外部団体がかけつけ、数百本の赤旗が林立してさながら革命戦のような緊迫した空気に包まれた。六月初旬以降、会社側は事業所ごとにロックアウトを宣言し、立入り禁止の仮処分と暴行事件の告発、告訴を以って組合側に対抗したのである。会社側の合法的手段に対して組合側はますます暴行、脅迫的デモをくりかえしたが、世論はようやく彼等に対して批判的となって行った。

一方、日共党員を中心とする一部の人達のあまりにも極端なる企業破壊意図が、ようやく組合員の内部にも疑念をもたれはじめたのである。六月末には、三、五〇〇名が退転を申し出るに到り、また各工場でも次々と事実上の妥結を行ったので、さすが強気の総運合もようやく形勢の不利を悟ったのである。かくて七月二十日に交渉は再開されたが、このときには勝敗の数ははっきりと決っていた。

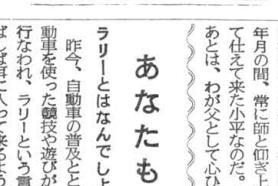
「この難関を乗り切らなければ会社自体がつぶれる」主税はそう信じたのである。だから如何に組合側が暴れ狂っても、一歩も後退をしなかったのである。相手を倒さなければ自分が死ぬ以外はないのだ。生死ぎりぎりの決定に迫られた彼は、不動の信念をもって死線を突破したのである。ときに生命の危険すらおぼえ、自宅に帰らざること月余に及んだのであるが彼がこの大ストライキによって得た教訓は実に大きかったのである。この大難関を見事に克服した彼の信念が会社の基礎を安定させ、その後の繁栄を導き出したことはいうまでもない。

昭和二十五年の六月に勃発した朝鮮動乱は、沈滞しきった日本の経済界に大きな活路を開いたのである。各産業はストックを一掃した上に多量の新規需要をかかえ、その生産は急速度に上昇したのである。二十五年秋から日立製作所の売上高は異常な伸び方をはじめ同年下期は前期にくらべ八〇パーセントを増産して九八億円を数えたのである。経営収支のバランスは完全に回復し一割の配当を復活することができるようになった。二十六年上期には更に一段と伸びて売上高は二四〇億円に達した。前年同期の二・六倍である。

こうして会社の業績がぐんぐん好転しているとき、主税は更によいニュースに恵まれた。即ち、前社長小平の追放解除である。

「永いあいだ不自由だったでしょう。会社もどうやら危機を乗り越えてくんにちまでやってまいりました」主税は早速解除の祝いにかけつけ、小平のカムバックを懇請した。それは単なる儀礼ではなく心からの懇請であった。然し小平は〝禍〟として承知をしなかった。「しかし会社の現状は拝見したい。さぞ立派になったことでしょう」彼は謙虚にそういうのであった。七月のある日、小平混平は六年ぶりで日立工場を訪問した。勿論、主税は案内役として同行した。小平にとって、日立工場は〝なつかしい古里〟である。同様に主税にとってもそれは、忘れえぬ〝心のふるさと〟である。若き日の思い出と、壮年の時代の追憶とが次から次によみがえって来るのであった。小平は眼を細めるようにして往時を偲ぶのであった。その彼の眼に、いま六年ぶりでうつる工場の姿は別れていた愛児のごとく見えた。

「倉田君、ありがとう。本当に



よく育ててくださった。礼をいいます」小平は改めてしみじみと主税に挨拶するのだった。敗戦直後のあのみすぼらしさを考えると、わずかな間によくもこれだけ立派になったと思うのだ。そして全責任を背負って健斗した彼の努力に対して心から礼を言いたかったのである。

「いや、そうおっしゃられるとご返事の申し上げようがありません。私でなくても、どなたでもおやりになれたことですよ」主税は本当にそう考えていたのだ。たまたま選ばれて自分が大任を引き受けたまでのことで、若いときから小平の薫陶を受けた人間ならば、恐らく誰にしてもできたろう――と思うのであった。〝和をもって貴しとなす〟という小平の精神をそのまま受け継ぎ、人材の育成につとめたからこそ発展しえたのであり、決して一個人の力のみによるものではないことを謙虚な彼は誰よりもよく知っていたのである。

小平の追放が解除され、当人の喜びもさることながら、主税としても嬉しくてたまらなかった。〝ぜひ、もう一度〟というのを小平はどうしても固辞して受けなかった。「ではせめて相談役として、至らぬ私どもにご示唆、ご指導をいただきたいとうございます」たっての願いを容れて、彼は日立製作所の相談役となったのである。然し、よろこびは短かった。

六月二十日追放解除となった彼はその年の十月五日、忽然として他界してしまったのである。

行年七十八歳であった。すぐに彼の訃が伝えられた。その一瞬、主税は、全身の力が抜け宙に浮いたような気がした。涙する心のゆとりもなく、ただ呆然とするのみであった。青春、学窓を出てすぐに彼のもとに来り、半世紀ちかい年月の間、常に師と仰ぎ上司として仕えて来た小平なのだ。父亡き あとは、わが父として心ひそかに甘えていた小平なのだ。その彼が卒然として幽冥境を異にしてしまったのである。彼の死を事実として感じ、心から慟哭したのは、おだやかに眠る遺骸の枕頭に座したときであった。

十月九日、青山斎場において日立製作所葬をもって盛大な葬儀が行われた。一代の巨人を送るにふさわしく朝野の名士を網羅し、外国人の顔も少くなかった。葬儀委員長の主税はつつしんで小平の靈前に進み、弔詞を読んだ。列座の中で見苦しくすまいと覚悟していたが、彼は読んでいるうちに万感を抑えかねて、ともすれば声のかすれるのをとめることが出来なかった。

悲しみは悲しみとして主税は小平の死によって再び決意を新たにした。先輩、師父として彼を仰ぎ偉大なる彼の指導に頼ろうとした彼は、みずからそれを恥じ、決然として邁進することを、己れ自身に誓った。（つづく）

（文責　養父守）

あなたもラリーを！

ラリーとはなんでしょうか

昨今、自動車の普及とともに自動車を使った競技や遊びが各地で行なわれ、ラリーという言葉がしばしば耳に入って来るようです。

ところで、ラリーとはいったいなんでしょうか。それは、〝集まる〟という意味です。文字通り親しい人達が愛車をもち寄って、自動車の運転技術を生かし、正確運転を主体とした競技を楽しむのがラリーです。

自動車競技といえば、ものすごいスピード・レースを想像しがちですが、ラリーのように誰にでも楽しめるものもあるわけです。

道路が狭く、悪くて、スピードレースのできない日本ではラリーなどは国情のあったモータースポーツとして恰好のものといえます。

自動車競技のいろいろ

自動車競技には大別して、いろいろの種類があり、中には特殊な車で特殊の人々しかやれないものもある一方、誰もが楽しめるものもあります。

＝ラリー＝

自動車の正確運転を競う。

＝トライアル＝

スピードと耐久力の競技

＝ジムカーナ＝

自動車による運動会

＝スピードレース＝

主として競走車によるスピード競技

＝コンクール・ド・エレガンス＝

自動車のみだしなみを競うもの。

＝フィギュア・レース＝

自動車運転の基本技術を競うもの

モンテカルロ・ラリー

ラリーとは実際にどんなものであるかを知らせる前に、世界的に有名なモンテカルロ・ラリーの実際についてお知らせしておいた方が興味があると思います。

このラリーは毎年1月中旬に1週間にわたって行なわれ、欧州各国からの参加車は、グラスゴー・ストックホルム・オスロ・リスボン・モンテカルロ・アテネ・ミュンヘン・バレルモの各都市からスタートし、フランスのギャップという町に集まります。

ここまでの道は季節から、雪や氷とさされて悪条件の連続です。参加車は特別のタイヤを用意し、ヘッドライトにもワイパーをつけ遠距離照射のライトを装備して、交替運転をしながら夜を目についで走りつづけてきます。この間、もちろん指定速度があり、不意にチェックポイント（関門）があって正確運転の如何が採点されます。ギャップの町に集った参加車はモンテカルロにむかった3千粁にわたるラリーを行ないます。この道路は良好ですが減点制度が厳しく、諸処にチェックポイントがあります。こうして参加車は各地をスタートしてからちょうど5日目にモンテカルロにつきます。

6日目はモンテカルロの裏にある1周72マイルのコースを、定められた速度で、ぐるぐると廻ります。7日目はモナコグランプリが行なわれる市内の道路でスピード・レースを行ない、今までのコースの走行で車が参っていないか、どうかをテストします。

8日目がコンクール・ド・エレガンス。すべての参加車をならべて、車の傷み具合や、車内の整頓状態をしらべて採点します。

以上の総合点によって優勝が決定しますが、表彰式にはレニエ大公も出席し、モンテカルロはお祭りさわぎとなるわけです。

ラリーの競技方法（ルールとすすめ方）

(1)リライアビリティー・ランコースは前もって指定されている場合と、知らされない場合があります。以前行なわれました日本一周の読売ラリーはJMCラリーが、その大きな基本とられています。前者は例えば、午後4時までに名古屋につけ、といったやり方です。これはかならず高度のテクニックを要し、ちょっと一般的ではないが競技自体としては面白いものです。競技者は、まず、地図を詳しく調べ、どのコースを走って行けば一番得かを見定め、まずコースが決ったら出発地点から名古屋の到着地点までの距離を割り出します。この割り出し方に難しさがありまして、普通では、マップ・メーターで地図上の距離を計って決めます。距離がわかったら時速をどこの位で走ればよいか計算して走り出す。だから準備も大変だし、どこへ行くのか前もって分らないので、地図も詳しいのを数多く準備しなければならず、マップ・メーターも必要になってくる。高度で難しいだけに他のラリーよりも面白さも倍になるというわけです。

一般に行なわれているのは出発時に行なう案内書（略図）を渡してくれるので、説明文と地理判断さえ間違わなければ目的地には着けるが、いくら定められた速度で間違いなく走るかということになってきます。つまり運転技術と計算の問題になるので、JMCが行なっているのはこの方法です。参加車は

スタートのとき「直進して○町の△△ガソリンスタンドのある十字路を右折して行け。時速30粁」という具合に指示されます。参加車は交通法規を厳守しなければ失格または大きな減点となります。

（一頁よりつづく）

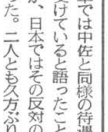
深田　中野　節子
落葉分け赤土掘り て苗木植ゆる山の斜面に杉苗の白ふ
吉留　白木うめの
すみ渡る大気を染めて悠悠と波に かたむく落日にあう
武丸　立石　昇
大任を帯びて去れど事成らず帰る夜汽車に物思ひする
武丸　立石ろせの
彼岸過ぎ日あし伸びたる縁側の障子の桟に埃り目立ちぬ
津屋崎　麦野　時雄
千両と梅もつきの実を播きおける小鉢二つを日陰りに移す
井尻　林　まつえ
大利根の鉄橋のかなたに沈む陽満州を思い出で深く思のむ
村山田　吉田佐市郎
二十年の永き持病も好む酒禁めて ぞ癒る春や悦しき

宗像藪庵先生百話

南方

華やかなりし頃

宗像太郎坊



あれは陸軍では中佐と同様の待遇と尊敬を受けていると語ったことがあったが、日本ではその反対のようであった。二人とも久方ぶりのウィスキーとライスカレーで満足そうにしていた。明ければ、わたしはブランケジャランに向って出発した。コタャチネには自動車将校一、同分隊と数名の他の兵が駐留する事になった。ブランケジャランというところには、オランダの軍隊が駐屯していたが、彼等の軍隊は、警察のような仕事をしていて、土民の蜂起に備えていたのである。

甲状腺腫

わたしが作業の孤点、ブランケジャランに宿営した二日の郡病院（もと蘭軍兵舎）の一室を借りて、日本兵と労務者の治療に当ったのであるが、ある日、労務者の一団が到着し、これから奥の作業場に突込むというので、問診・視診をしたのであるが、喉の膨れている者の多いのにびっくりした。最初はおや、顔が二つあるのかとも思った。学生のポリクリの時に、女の甲状腺腫にはよくお目にかかったが、こんな大きなスツルーマは初てである。その上、彼等は顎髭を伸ばしているので、これがスツルーマの上から左右に垂れかかって頭髪のように思われる。わたしは面白いので衛生兵に髭剃を持ってこらせ、筆でスツルーマの面に、目・鼻・口と顔を画き入れ、上の本当の顔には頭からタオルを姉さんかぶりにさせ、少し離れて、みんなで感心し、笑いながらみた。

スツルーマは、満州の熱河省、台湾、アルプス等に多いことは聞いていたが、スマトラで、しかも実際にお目にかかろうとは思わなかった。報告ものだと思い、統計をとってみたが、三十人に一人いる。目の玉が飛び出していないので、地方病性のスツルーマと思うが、グレチン（休癖）を見ない。

×　（つづく）

もっとも小人は作業に不適当で連れて来なかったのかも知れない。スツルーマの連中は別段、自覚症も苦痛もないように見えた。この人達はアチエ州のガヨ区の南で、ウィルヘルミナ山脈の西側に沿って流れるラウウ・アラス河の流域に住む人達であり、主にカロ・バタ族である。この人種は、スツルーマの原因を、タブ・ジムボ Habudimbo（砂糖黍）の果実が飲用水の中に落ちこみ、この水を飲んでの中毒だと信じている。所変れば品変るで、嫁達は言にスツルーマのあることを希望しているという。首飾りではあるまいが、これがあると結婚の申込みが多いからである。しかしこれの出来ることを欲しない者は、馬の毛または撚糸製の紐を首に巻く。また既に出来ていて、これが大きくなるのを、恐れる場合も、首に紐を巻くのである。

×　（つづく）

編輯部より

掲載中の「日立と共に五十年」は本年の九月号を以って終了致します。倉田主税会長の半生と、日立を現在あらしめた辛酸粒々たる力行伝は、大方に多大の感銘を呼んだ事と存じます。

十月号から出光佐三氏が世に問う新著「マルクスが日本に生まれていたら」を連載いたします。御期待下さい。